

世界と日本をつなぐ 国際協力

2013年、JICA理事長として初めての新年を迎えました。2012年4月に理事長に就任してから9カ月、アジア、中東、アフリカの開発途上国に足を運び、各国要人と面談と併せて、JICAの事業現場も視察してきました。

よって途上国に根付き、多くの人々に「元気」を与えてきたということ。そして私たち自身も、彼ら、彼女らとのかかわりの中で常に勇気付けられ、力をもらってきたということですね。

「元気の出る国際協力」には、大きく分けて次の4つの柱があると考えています。

「元気の出る」 4つの柱

まず一つが「平和の構築」です。第二次世界大戦以降、日本は平和を何よりも重んじ、戦争のない社会を作り上げてきました。しかし残念ながら、世界にはまだ紛争が起こっている国や地域がたくさんあります。JICAが平和構築・復興に向けた支援を通じて、パートナーである途上国や国際機関などと共に平和・安定という、本来、社会があるべき姿

巻頭インタビュー

特集 国際協力のいま

日本の生きる道

誰もが願う世界の平和と人々の幸せ。

JICAはその実現のため、開発途上国の人々と共にあゆみを進めてきた。世界も、日本も激動の時代を迎えるいま、

私たちが生きる道を描くカギとなるのが「元気の出る国際協力」。

田中明彦 JICA理事長が打ち出す方針について聞いた。

を世界に広めることは、私たちの使命でもあると思います。

そして、平和・復興の次のステップが本格的な国づくり。その中で重要となるのが、二つ目の「市場の拡大」です。途上国の経済成長が進み、雇用が確保されれば、人々の所得向上が可能になる。そのためにJICAは、格差と不均衡の是正に配慮しながら、広域インフラを含め経済・社会基盤の整備を中心とした支援を展開しています。それが将来的には、

日本企業などの進出や市場拡大にも資する基盤整備につながり、日本経済の中長期的な発展として返ってくるがあると思います。

三つ目は「知識を高める」国際協力です。人間は唯一「知恵」を持つ動物とされ、多くの人には世界のことを知りたい、学びたいという欲求があります。国際協力の現場は、まさに知恵の宝庫。日本の知恵を途上国の課題解決に還元すべきですし、また、私たちも途上国から学ぶべき知恵がたくさんあります。その一例として、2008年から独立行政法人科学技術振興機構との連携の下で実施している「地球規模課題対応国際科学技術協力（SATREPS）」では、途上国を研究の主なフィールドとして、日本と途上国の研究者が共同研究を行っています。

そして最後に、国際協力は世界との「友情の輪を拡げる」ものです。JICAはこれまで、日本と途上国で、実に多くの人々の協力を得て事業を実施してきました。彼らが現場で生み出したハーモニーが、ゆくゆくは「友情の輪」として拡がっていく。東日本震災後、日本は世界各国・地域からたくさんの方々の支援、温かい言葉をいただきましたが、それがまさに、長年の協力で培った「友情の輪」の証しだと思います。

パートナーと 共に進むJICA

言うまでもなく、国際協力はJICA

CAという一つの組織だけでは実施できません。多くの日本人、そして、さまざまな国の友人たちと、共に進めていくべきものなのです。グローバル化や気候変動などの影響により、途上国のニーズはますます多様化しています。それらに迅速かつ的確に対応するためにも、JICAは共に汗を流していただける方たちとの関係を強化していかなければなりません。

現場で汗を流す日本人専門家、コンサルタント、建設会社をはじめとした日本企業、ボランティア、NGO、大学、地方自治体、国際緊急援助隊；、JICAにはさまざまなパートナーがいます。皆様のご協力があつて初めて、途上国での活動が展開できます。私たちにもまだまだ至らないところがあると思いますので、皆さんには、率直にアドバイスを要望、場合によっては苦言を呈していただき、共に日本の国際協力をより良いものにしていきたいと考えています。

「元気の出る国際協力」の四本柱

- 「平和を構築する」→ 8 ページへ
- 「市場を拡大する」→ 10 ページへ
- 「知識を高める」→ 12 ページへ
- 「友情の輪を拡げる」→ 14 ページへ



© Kenshiro Imamura



© Shinichi Kuno

PROFILE

田中 明彦 TANAKA Akihiko
東京大学教養学部卒業。マサチューセッツ工科大学で博士号(政治学)取得。東京大学教養学部助教授、東洋文化研究所教授・所長、大学院情報学環教授、国際連携本部長、理事、副学長などを歴任。2012年4月よりJICA理事長。